

世襲戦隊カゾクマンII

作／田村孝裕

登場人物

一郎 (父レッド)

多津子 (母ピンク)

大輝 (兄ブルー)

紗江 (妹イエロー)

正則 (婿グリーン)

詩織 (大輝の妻)

千代 (先代グリーン)

男前男

イーゲン

ミドラー

幕にテロップ「前回の物語から一年……」

カゾクマンの住む家、居間。

生まれたばかりの大翔（ヒロト）をあやしている詩織。
しばらくして耳鳴りのような音がこだまする。

詩織
?!

玄関の方から顔を出すミドラー。

耳をつんざく音色に耐えながら、玄関を確認する詩織。
ミドラーは詩織の視界に入らぬようトイレへと隠れる。

詩織
来たのね、ミドラー……。

耳鳴りが次第に大きくなる。

詩織
私に何の用？あなたの相手は、カゾクマンのはずよ！

さらに大きくなる。

詩織
皆さんが出払ってるときに来るなんて姑息な手段を使うのね。あなたの父親であるヘドラーは正々堂々とカゾクマンに立ち向かっていったわ！

水洗の流れる音。トイレの扉を開け、姿を現すミドラー。

ミドラー
減らず口を叩くようになったな、詩織。

詩織
……………。

ミドラー
か弱い小娘だった貴様はもうどこにもいないようだ。それは母親になつた自覚か？それともピンクを継ぐ者としての使命か？はたまた私を目の前にした恐怖か？

詩織
恐怖なんかじゃない！
ミドラー
フンッ！面白い。

耳鳴りがさらに大きくなる。
苦しむ詩織。

ミドラー よかろう。正々堂々と立ち向かおうではないか。

ミドラーは手にしていたカセットデッキの停止ボタンを押す。
耳鳴りの音が消える。

詩織 カセット、デッキ……。

ミドラー CDでは音が飛ぶ可能性がある。

詩織 今時CDなんか聴かないわよ！ミドラーおばさん！

ミドラー おばさんだと？！

詩織 未だにカセットデッキだなんて年齢が知れるわ。

ミドラー その減らず口、二度と叩けぬようにしてやるわ！

ミドラーは大翔を指差し、

ミドラー 其奴を奪いに来た。

詩織 大翔を？！

ミドラー いずれレッドを継ぐ者……今、その芽を摘んでおくのも悪くはない。
詩織 この子は絶対に渡さない！

大翔を抱きかかえたまま玄関へ逃げようとする詩織。

ミドラーはとっさにカセットデッキの再生ボタンを押す。

つんざく耳鳴り……詩織が動けなくなる。

ミドラー カセットをなめるでないぞ、詩織。

詩織 (苦しみ)

ミドラーは詩織が苦しむ隙に大翔を奪い取る。
泣き出す大翔。

ミドラー
バーカ！バーカ！
詩織 ……大……翔……。

捨て台詞を吐き、庭から逃げていくミドラー。
耳鳴り、大翔の泣き声、ミドラーの高笑いがこだまする。
幕が降りる。

同じ頃……。

5枚の幕が下りている、その幕前。
ハンドマイクを手にしたレポーターの男（イーゲン）が立っている。

そこへカゾクマンスーツを着た、一郎、多津子、大輝、紗江、
正則が神妙な面持ちで現れる。

途端に焚かれるフラッシュ。
つまりここは謝罪会見場となる。

一郎 ……この度は、私の不祥事により、たくさんの方にご迷惑おかけし、
何より世間の皆様に、大変不快な思いをさせてしまったこと、この場
を借りて深くお詫び致します。本当に申し訳ございませんでした。

五人が正面に向かい、一斉に頭を下げる。
半端ないフラッシュの量が五人に浴びせられる。

一郎 まず私の方から経緯について説明致します。私はミドラーとの戦い
で腰を痛めました。病院の先生からは手術を勧められましたが手術
をしてしまいますとリハビリを含めてひと月はカゾクマンとしての
任務を果たせません。いつミドラーが現れるかわからない状況です
ので、私は妻とも相談して、マッサージ店に通いながら、騙し騙しレ
ッドを続けてまいりました。しかしマッサージ代もバカにはなりま
せんので、いっその事マッサージチェアを購入した方が安く済むの
ではないかと……それが「防衛費の私的流用に当たる」とご指摘を受
けた次第です。

イーゲン では、代表質問に移らせていただきます。

一郎 よろしく願います。

イーゲン そのマッサージチェアはおいくらしたんですか？

一郎 40万円です。そのお金は、全額返金させていただきました。

イーゲン それが私的流用に当たるとの認識はなかったんですか？

一郎 今まで、ミドラーとの戦いで負った怪我は全て防衛費で賄っていた
いただきましたので、今回もそうかと……私の認識の甘さです。

イーゲン 一部報道では、ゴルフで腰を痛めたとあります。

一郎 そのようなことは一切ございません。

イーゲン では今回の報道を受けまして、カゾクマンとしてはどう責任を取る
おつもりでしょうか？

一郎 一度失った信用を取り戻せるよう、また家族一丸となってミドラー
一族の壊滅に向かい頑張っていく所存です。

イーゲン (遮って)ピンクさんにも質問よろしいでしょうか？

多津子 ええ？あたしですか？

イーゲン マッサージチェアは、ほとんどピンクさんが使われていたという記
事もあるんですが？

一郎 ちよつと待ってください。(マイクを抑えて) そんな質問するなんて
打ち合わせにはなかったはずですよ。

イーゲン 多くの国民が関心を寄せていることです。

一郎 しかし、

イーゲン いかがでしょうか？ピンクさん。国民の誰もが納得するご回答を。

多津子 「ほとんど」というのは語弊があります。お父さんが使ってないとき
に、何度か座りはしましたけど……。

イーゲン 先ほどレッドさんがマッサージ店に通ったとおっしゃいましたが、
それも防衛費で賄われたものですよ？

多津子 ええ。でもそれはミドラーとの戦いで負った怪我ですし、「治療費」
という名目ですから私的流用には該当しないはずですよ。

イーゲン そのマッサージ店でピンクさん、あなたはヘッドスパのセット券を
購入されているじゃないですか。

一郎 ヘッドスパ？！

イーゲン ヘッドスパは何の治療に当たるんですか？

多津子　　そ、それは……。

一郎　　なんだよ？ヘッドスパって。聞いてないぞ。

紗江　　もしかして、母さん……。

多津子　　行っていないわよ、ヘッドスパなんて。

イーゲン　　ではこの写真をどう説明するおつもりですか？

幕にヘッドスパをしながら気持ち良さげな多津子の姿が映る。

イーゲン　　これはマッサージ店の店員がツイッターにアップしたものです。

多津子　　！！

一郎　　母さん……。

大輝　　なにやっつてんだよ……。

多津子　　た、他人の空似ですよ、こんなの。

紗江　　なに言ってるのよ。もう逃げられないって。

正則　　謝っちゃった方がいいですよ、お義母さん。

多津子　　（逆ギレ）わかりました！わかりましたよ！マッサージ代もヘッド

一郎　　スパ代も全部まとめて防衛省にお返ししますから！

多津子　　そういう態度は良くないぞ、母さん。

大輝　　（おごなり）はいはい。どうもすいませんでした。

多津子　　母さん！ちゃんと謝れって！

多津子　　………。

次第に涙をすすり始める多津子。

多津子　　……どうして……どうしてこんな辛い目に合わなきゃならないの！

あたしたちはミドラーを倒すために、日本の平和を守るために、何十年も体を酷使してきたのに……。

皆　　………。

イーゲン　　倒せないからですよ。何十年もミドラー様を倒せないあなた方に、国民は飽き飽きしているんです。

紗江　　ミドラー「様」？

イーゲン　　改めてお伺いします。あなた方は国民の皆さんに対して、どう責任を

取るおつもりですか？

一郎

……。

イーゲン

今回の件で地球防衛軍司令官は退任されたんですよ。

一郎

……わかりました。

多津子

お父さん、まさか……。

一郎

私レッドと母ピンクは、カゾクマンを退任いたします。

一斉に焚かれるフラッシュ。

多津子

ちよつと待って！詩織ちゃんにはまだ無理よ！

紗江

そうよ！大翔だってまだ小さいんだし！

大輝

親父！俺たちの世代でミドラーを倒すって約束したじゃないか！

正則

今二人に辞められたらカゾクマンは3人になっちゃうんですよ！

一郎

わかっている！わかっているけど、このご時世、誰かが責任を取る以外に方法はないじゃないか！

男前

（声）その必要はありません！今ここで決着をつけましょう！

幕があがる。

壮大な音楽とともに待ち構えている男前男。

正則

お前は……！！

多津子

怪人、男前男……！！

男前

お久しぶりです。カゾクマンの皆さん。

紗江

どうして？あんたはうちの人がやつけたはずでしょ！

男前

確かに私は正則さんに不覚を取った。しかしあの程度で死に絶える

私ではありません。

正則

何度やっても結果は同じだ！

男前

悪いが正則さん。あなたに用はない。

正則

なに？！

男前

用があるのは大輝さん、あなただ。

大輝

俺に？

男前

詩織さんに、ピンクを継がせる気ではあるまいな？

大輝 当たり前だ！俺たちの世代でお前らとは決着をつける！
男前 その意気です。私も詩織さんとだけは敵対したくない。
大輝 まだそんなことを言っているのか！
男前 勝負です！さあイーゲン！かかれ！
多津子 いんげん？

イーゲンが多津子の首筋にチョップを一発。
途端に気絶する多津子。

一郎 (駆け寄って) 母さん！！
イーゲン 俺に命令するな。男前男。
紗江 やっぱりあんた、怪人だったのね。
イーゲン 察しがいいな。イエロー。
一郎 くそー……こうなったら、うっ！(ぎっくり腰)
正則 お義父さん！大丈夫ですか？！
一郎 すまない……さっきのお辞儀で、腰をやってしまった。
大輝 紗江！ここは危険だ！母さんをどこか別の場所へ！
紗江 了解！

紗江は多津子を引きずりながら去る。

男前 カゾクマン諸君！勝負だ！
動けない一郎を他所に、四人のバトルが開始。
正則がダメージを食らい次第に劣勢へ。

大輝 正則さん、大丈夫ですか？！
正則 すみません、お義兄さん……。
イーゲン 男前よ。こんなブタに負けるとは、お前もたいしたことないな。
男前 ありえない。あのときは見違えるほど弱くなっている。
正則 ……もうダメです。
大輝 えっ？

正則 お義父さん……お義兄さん……すみません！

逃げるようにその場を走り去る正則。

一郎 正則くん！（追いかけてようと）イテテテテテ！

イーゲン 敵前逃亡とは……前代未聞だ。

男前 見損ないましたよ、正則さん。

イーゲン お前が死ぬのも時間の問題だな、ブルー。

大輝 くそーっ！

襲いかかる大輝。しかし二人相手だと歯が立たず……。

ここへ一郎の携帯が鳴る。

一郎 （出て）詩織ちゃん、どうした？なんだって？！わかった！すぐに行

く！大輝！大変だ！大翔がミドラーにさらわれた！

大輝 何だって？！

大輝は即座にその場を離れる。

一郎 おい、大輝！俺を置いていくな！大輝！置いてかないでくれ！

イーゲン （ゆっくりと一郎に近づき）……残念だったな、レッド。

一郎 ！！

イーゲン 死ね！

手を振り上げるイーゲン。それを男前男が制する。

男前 よせ。手負いの相手に手を下すのは私の道理に反する。

イーゲン ……。

男前 それにミドラー様の目的はすでに達成されたのだ。

イーゲン ……お前はつくづく甘い男だな。

男前 なんとでも言え。

イーゲン まあいい。いずれレッドではなくなる男に殺す価値はない。

そう言い残し、イーゲンは去る。

男前男

(バラを差し出し) これを。

一郎

……俺に？

男前男

詩織さんに。

一郎にバラを手渡し、去って行く男前男。

一郎

(立ち上がるうと) イテテテ……。

幕が降りる。戦隊ヒーロー風のオープニング曲。

上手からピンク、ブルー、レッド、イエロー、グリーンの影。

幕が上がる。

一郎

父レッド！

多津子

母ピンク！

大輝

兄ブルー！

紗江

妹イエロー！

正則

婿グリーン！

一郎

五人揃って！せーの。

皆

(決めポーズ) カゾクマン！

皆

家族って何だ

世襲って何だ

それは繋がるってことさ

守りつづけるってことさ

世襲戦隊カゾクマン

一郎

赤い炬燵が家族を暖め

大輝

青い湯船が身体を癒す

紗江

黄色いカレーがお腹を満たし

正則

緑の野菜でバランス取るのさ

多津子

(台詞) あとは桃色の愛があれば……大丈夫

皆

家族って何だ

世襲って何だ

それは育むってことさ

愛しつづけるってことさ

世襲戦隊カゾクマン

溶暗……。

明転するとそこはカゾクマンの自宅。

一郎がマッサージチェアに腰掛けている。多津子と紗江は居間に、正則は縁側に座り、皆、うつむき加減……。そこへ紗江の携帯（LINE）が鳴る。

紗江 （見て）お兄ちゃんたち、もう帰ってくるって。

一郎 大翔は？

紗江 （首を振り）……………。

一郎 そうか……………。

多津子 どうする？また手分けして探しに行く？

一郎 今日はもうよそう。みんなの体力がもたないよ。

多津子 でも……………。

一郎 それに大翔は大切な人質だ。ミドラーもすぐに手を下すとは思えない。司令官の指示を待とう。

多津子 わかった。じゃ着替えちやうわね。

多津子は寝室へ、紗江は二階へと去る。

一郎は縁側で動かない正則に、

一郎 着替えないのか？

正則 ……着替えます。

そう言いながら動かない正則。

正則 （ため息）……………。

一郎 どうしたんだ？正則くん。

正則 ……お義父さん。今日は本当に申し訳ありませんでした。

一郎 ああ。

正則 しばらく、実家に帰ってもよろしいでしょうか？

一郎 ええ？！

正則 もちろん任務はこなすつもりです。ただ、実家から通わせてもらえないかと……………。

一郎 紗江と何かあったのか？

正則 いえ……。

一郎 倫太郎が心配だからか？

正則 ……………。

一郎 倫太郎の件は本当に申し訳ないと思ってるよ。俺のせいで、卵や石がウチに投げ込まれるようになって、正則くんのご両親にも倫太郎の面倒を任せつきりです。

正則 いえ。そうじゃないんです。これは、僕自身の問題ですから……。

一郎 ……話してくれないか？

正則 ……………。

一郎 わかってるよ。正則くんがずっと独りで、思い悩んでいたのは。

正則 そうなんですか？

一郎 だって、一時（いつとき）より、ガリガリに痩せてるじゃないか。

正則 ガリガリではないと思うんですけど……。

一郎 どのくらい痩せた？

正則 ×××キロが○○○キロに……。

一郎 ガリガリじゃないか。

正則 いやガリガリでは……誰にも気づかれていませんし。

一郎 ガリガリだよ。そんな△△キロも痩せるなんて。

ここに、着替えた多津子が一郎の部屋着を手に戻ってくる。

多津子

着替えられる？

一郎 ああ。起こしてくれるか。

正則 手伝います。

多津子と正則が一郎を立たせると、スーツを脱がせようとする。

そこへ着替えた紗江も戻ってくる。

多津子

（紗江に）あんたも手伝って。

三人はやいのやいの揉めながら、一郎を着替えさせる。

一郎 ありがとう。あとは自分やるから。
多津子 じゃあここに（ズボンを）置いとくわね。
一郎 ああ。

多津子がマッサージチェアの上にズボンを置く。
そこへ玄関扉の開く音。少しして神妙な面持ちの大輝と詩織が
入ってくる。

みな、「おかえり」などと優しく声をかける。

詩織 ……皆さん、ご迷惑おかけして本当にすみません。

多津子 いいのよ。詩織ちゃんは何も悪くない。

紗江 ミドラーも汚いわよね。詩織さん独りのときに襲ってくるなんて。

一郎 おそらく、最初から大翔を奪うつもりだったんだろう。

多津子 お父さん、早くズボンはいて。

一郎 ああ。（ズボンに手を伸ばすも落としてしまう）

正則 警察には行かれたんですか？

大輝 ええ。でも、話にならなかった……。

正則 話にならないって？

一郎 母さん。ズボン取ってくれるか。

多津子 はいはい。（ズボンを取りに）

大輝 警察として、捜査に乗り出すことはないって……。

多津子 （ズボンを忘れ）なんですって？！

紗江 どういうことなの？

大輝 ミドラー絡みの事件は地球防衛軍の管轄のはずだっけ。

紗江 それはそうだけ……。

多津子 でも、大翔は一般市民のはずじゃない。カゾクマンを継いだわけじゃないんだから。

大輝 それを言っても、聞く耳を持ってくれなかった。

紗江。ズボン取ってくれ。

一郎 うん。（ズボンを取りに）

正則 つてことは、倫太郎にも同じようなことがあったら……。

紗江 （ズボンを忘れ）そうか。何も捜査してくれないってことよね？

大輝 そういうことになる。

紗江 倫太郎も大翔も、自分の身は自分で守れているの？

大輝 ああ。子供だからって「特別扱いは出来ない」の一点張りだった。

多津子 ……なんなの……昔はもつと協力的だったのに……。

正則 そういうご時世なんでしょうね……緊急事態でも、ルールや手順を

守らなきゃならない……。

一郎 正則くん、ズボンいいか？

あ、はい。(ズボンを取りに)

大輝 今後は自衛隊も、俺たちに手は貸してくれないだろう。

正則 (ズボンを忘れ) 自衛隊も？！

大輝 ああ。警察がこの調子じゃあ……。

正則 困りますよ！僕らがピンチのとき、必ず自衛隊が駆けつけてくれた
じゃないですか！どうするんですか？！またミドラーにやられそう
になったら！

大輝 ずいぶん弱気ですね、正則さん。

……。

大輝 一体どうしたんですか？さっきだって怪人を前に尻尾を巻いて逃げ
るなんて。

紗江 逃げる？

大輝 俺たちを残して、いきなり姿を消したんだ。

紗江 ちよつと！どういうことなの？！

正則 ごめん……。

紗江 ごめんじゃわかんないんだけど！

詩織 (一郎に) とりますよ。ズボン。(ズボンを取りに)

一郎 ああ、悪いね。

大輝 そんなことで、倫太郎を守っていけるんですか？！

詩織、ふと立ち止まり、涙をこぼす。

詩織 ……ごめんなさい……私は……大翔を守れなかった……。

大輝 詩織……すまない。そういう意味で言ったんじゃないんだ。

詩織 わかつてる……わかつてるけど……ごめんなさい……。

詩織がズボンに顔を埋めて泣いている……。

一郎 大丈夫かい？詩織ちゃん……。

詩織 (泣いて) ……………。

一郎 それ、俺のズボンだけど……。

ここで緊急事態を告げるブザーが鳴る。

身構えるカゾクマン。すると庭の塀(カゾクマンロボの顔)が煌煌とする。カゾクマンはそれに向かい整列する。

一郎 司令官に敬礼！

皆 はっ！

司令官 (声) カゾクマン諸君、初めまして。

一郎 せーの！

皆 初めまして！

司令官 (声) 本日付より、地球防衛軍日本支部、新司令官に就任した三枝だ。

一郎 せーの！

皆 (バラバラな返答)

司令官 (声) 早速だが、レッド。

一郎 はっ。

司令官 (声) 早くズボンを履きなさい。

一郎 はい、申し訳ありません……。

慌ててズボンを履かせてやる多津子と紗江。

一郎 お待たせしました。司令官。

司令官 (声) では、そちらへ挨拶に出向こう。

一郎 挨拶って……？

多津子 ウチにいらっしやるんですか？司令官。

紗江 そんなの初めてじゃない？

家のインターホンが鳴る。

大輝

本当に、司令官が……？

座布団を敷いたり、お茶の用意をするなど、あわあわしている
カゾクマン。

詩織が玄関を開ける。

詩織

(声) 初めまして。司令官殿。

司令官

(声) そんな堅苦しくならないで。普通に話してよ。

詩織

(声) あ、はい……。

司令官

(声) 大変だったわね、詩織ちゃん。

詩織

(声) ありがとうございます。お気遣い頂いて……。

大輝

この声は……。

紗江

十条の、おばちゃん……？！

正則

つてことは、先代のグリーン……。

司令官

(声) お邪魔するわね。

少しして、皆の前に姿を現す千代。

千代

みんな、久しぶり。

一郎

お千代さん……。

多津子

ええ？お千代さんが司令官に就任したの？！

千代

詳しい話はあと。まずは達郎さんにお線香あげさせて。

多津子

あ、うん……どうぞ。こっち。

と多津子はお千代を寝室へと案内する。

詩織

お千代さんって？

大輝

先代のグリーンだよ。爺ちゃんがレッドで、親父がまだブルーだった
頃の。

一郎

詩織ちゃん、初めてだっけ？

詩織

はい……。

一郎

結婚式に呼ばなかったか？お千代さん。

大輝 あのとときは治療中だったから。おばちゃん。

鈴が鳴る。

紗江 うちの結婚式だよ。おばちゃん呼んだのは。それが最後。
一郎 そうか。

ここへ多津子と千代が戻ってくる。
千代は一郎に手土産を差し出し、

千代 一郎ちゃん、これ。
一郎 懐かしいな、十条のぬれ煎餅。

多津子 (煎餅を受け取り) すみません。ありがたく頂戴します。詩織ちゃん、
司令官にお茶。
詩織 はい。

詩織は台所へ行き、お茶の用意を。

千代 司令官なんてよしてよ。昔みたいにお千代さんでいいから。
多津子 でも……。

千代 ホントに。堅苦しいのは好きじゃないの。みんなも座って。
多津子 (少し笑って) わかりました。

皆、座って。

多津子 でも、どうしてお千代さんが司令官に？

千代 志願したのよ。カゾクマンの歴史の中で、今が一番の危機だから。
多津子 一番の、危機？

千代 正式発表はまだだけど、おそらく来月には、日本が地球防衛軍からの
脱退を表明する。
大輝 脱退だと？！

千代 この数年、テロ対策法や自衛隊の強化に乗り出していたのは、すべて

ミドラーを退治するためのものだったのよ。

多津子

なんですって?!

大輝

つまり、自衛隊や警察が直接ミドラーに攻撃できるような法案を作ったってことか?

千代

その通り。警察が、大翔ちゃんの誘拐事件に関与しようとしなければ脱退への根回しが済んでいる証拠……今後は自衛隊も、あなたたちの助けには入らないはずよ。

紗江

どうなっちゃうの? あたしたちは。

千代

地球防衛軍日本支部は解散……つまり、カゾクマンの終焉よ。

詩織

(お茶とお菓子を) どうぞ。

千代

ありがとう。(お茶をすする)

大輝

俺たちは国民から見放され、いよいよ国から見切られるんだな。

正則

……もう潮時なんでしょうね。自衛隊や警察にミドラーを任せた方がいいかもしれません。

大輝

正則さん、どうしたんですか?! そんなにカゾクマンをやめたいんですか?!

正則

やめたいというか、お義父さんお義母さんも引退されますし。

大輝

やめたいなら勝手にやめればいい。俺と紗江でミドラーを倒してみせますよ。

紗江

それは……無理じゃね?

大輝

じゃあミドラーを倒せないまま、カゾクマンをやめろっていうのかよ?!

紗江

そうは言っていないけど……。

大輝

俺は一人でも続けるぞ。大翔を人質にとれたまま、終われるわけないじゃないか!

千代

大輝! 落ち着きなさい!

大輝

……。

多津子

そうよね。あたしもまだまだやめるわけにはいかないわ。

紗江

でもどうすんの? 詩織さんにピンク引き継ぐって宣言しちゃったのに。

多津子

大丈夫よ。ショッキングピンクかなんかで再デビューすれば。

紗江

ピンクが二人ってわかりづらくない?

多津子

スパンコールかラメ入れれば平気よ。

紗江

いいの？林家パー子っぽくなっちゃうけど……。

多津子

……そっか……。

紗江

普通にブルー着ればいいじゃない？お兄ちゃんがレッド継ぐんだから。

一郎

いや。俺もやめないよ、紗江。

紗江

ええ？

一郎

総理が地球防衛軍からの脱退を表明すれば、どうせ俺たちはカゾクマンを続けることはできない。つてことは、その表明を前に、俺たちの手でミドラーを倒すしかないんだ。つまり、これからのひと月が、ミドラーとの、最後の勝負……（千代に）ですよ？

千代

あたしもそれが言いたかったの。この5人体制のまま、ミドラーとの最後の決戦に挑む！！

紗江

……わっ！なんか鳥肌立ってきちゃった……。

正則

申し訳ありませんが僕は続けられません……。

多津子

本当に、どうしちゃったのよ？正則くん。

正則

すみません……このままだと、皆さんにご迷惑をかける結果になりそうで……。

紗江

迷惑って？どういうこと？

千代

正則さん。

千代は正則の前に立つと、いきなりひっぱたく。

みな一様に驚く。

正則はひっぱたかれた頬を押さえて、

正則

ほぼ、初対面なのに……。

一郎

お千代さん、暴力は良くないですよ。

千代

正則さん。今の、見えてた？

正則

………。

千代

見えないから、避けられなかったんじゃない？

正則

……司令官の仰る通りです。

千代

やっぱり。実は、あなたのここ最近の戦いぶりを分析していたのよ。

ジョッカーひとり倒すにも手こずっていたから。

正則 申し訳ありません。

紗江 どういうこと？まさか、目が見えないの？

正則 見えにくくなってきたんだ。相手の攻撃が……。

紗江 そんな大事なこと、なんで今まで黙ってたのよ！

正則 家計が苦しい今、僕が病院にかかるわけにはいかないと思って……。

紗江 なに言ってるの？！それとこれとは話が別でしょ！

多津子 そうよ！それに治療費なんだから、お金は防衛省に請求すればー

正則 おそらく治療費にはなりません。ミドラーとの戦いで、負ったもので

はありませんから……。

紗江 徐々に見えなくなってきたっていうの？

正則 いいや……。

一郎 まさか……投げ込まれた石や卵が、当たったんじゃ……。

正則 はい。ゆで卵でした……。

多津子 そんな……。

正則 僕は今、戦うのが怖くて仕方がありません。また卵が投げられたらと思うと、この家にいるのすら怖いんです……。

紗江 あんた！！

紗江は涙ぐみ、正則を抱きしめる。

千代 正則さん。あなたは治療に専念なさい。お金は地球防衛軍で、なんとかする。

正則 司令官……。

千代 それまでグリーンは、あたしが務めるから。

多津子 お千代さんが？！

一郎 大丈夫なのかい？股関節の方は。

千代 あれから人工関節入れたから調子がいいの。それに見たでしょう？さっきのビンタ。まだまだ衰えてなんかいないわよ。

正則 すみません。司令官。

紗江 ありがとう。おばちゃん。

千代 それでいいわね？一郎ちゃん。

一郎 もちろん。お千代さんが加わってくれるなら、鬼に金棒だよ。

ここで一郎の携帯電話が鳴る。
別エリアに携帯で電話をしながら現れるミドラー。

一郎 あれ？知らない番号だ。(出て) もしもし。

ミドラー フフフツ！ハーツハーツハツ！

一郎 その声は……ミドラー！

ミドラー 久しぶりだな、レッド。

一郎 どうして、俺の電話番号を……？

ミドラー お前の座っているマッサージチェアは、以前、男前男が店員に扮して買させた代物だ。その際に、お前の番号を入力した。

一郎 なんだと？！

大輝 親父！スピーカーホンにしてくれ！

一郎 ああ。

一郎はスピーカーホンにしようと携帯を操作する。

ミドラー いいか？レッド。よく聞け！お前の大切な孫を死なせたくなければ、

今すぐカゾクマンを解散せよ！わかったな？

一郎 どうやってスピーカーホンにするんだっけ？

ミドラー 聞いているのか？！レッド！

紗江 もう！ちよつと貸して！

一郎 すまん……。

ミドラー もしもし。もしもし。

紗江は一郎の携帯を奪い、スピーカーホンに。

ミドラー レッド！聞いているのか？！もしもし！

一郎 すまん。ミドラー。もう一回話してくれ？

多津子 ごめんね！ミドラー！

紗江 今スピーカーホンにしたから。ごめんね！

ミドラー 今度はちゃんと聞くのだ！もう一度言う。大切な孫を死なせたくないければ、今すぐカゾクマンを解散せよ！

多津子 解散なんてするわけないでしょ！

ミドラー 一週間やる。一週間後の午後12時までには解散を宣言しなければ、大翔を殺す！じゃあな。

詩織 ちよつと待って！大翔の声を聞かせて！

ミドラー フンっ。仕方がない。イーゲン！

大翔を抱え、登場するイーゲン。

ミドラー 大翔の声を聞かせてやれ！

イーゲン たった今、眠ってしまいました。

ミドラー 起こせ！起こすのだ！

イーゲン はっ。

イーゲンは大翔を乱暴にあやす。泣き出す大翔。

詩織 大翔！

ミドラー ハーツハツハツ！ハーツハツハツ！

一方的に電話を切るミドラー。

ミドラー イーゲン。まだ首も座っていないのに乱暴するではない！

イーゲン 申し訳ありません。

ミドラー 貸せ！（大翔を奪い）ごめんねえ、ヒロちゃん。あのおじちゃん怖いよねえ？

などと大翔をあやしなから去って行くミドラー。

イーゲンがその後を追う。

居間では電話が切れたあと、ただ泣くだけの詩織……。

千代 リミットは一週間。それまでにミドラーのアジトを突き止めないと。

多津子

でも、どうやって……？

紗江

……ねえ？さっき父さん「知らない番号からだ」って言ってなかった？

一郎

（ハツとして）ミドラーは着信履歴を残してる。

紗江

（着信履歴を見て）この番号の契約者を調べれば、ミドラーのアジトがわかるかもしれない。

大輝

ミドラーがそんなハマするか？絶対、本人の番号じゃないだろう。

紗江

（携帯を調べ）いや、これはおそらくミドラーの番号……。

大輝

どうしてわかる？

紗江

LINEの「友達追加」欄に、ミドラーのアイコンが出てきてる。

大輝

ありえない。そんな単純ミス。

詩織

ミドラーならありえるわ。あの人、相当機械に弱いはずだから。

詩織はミドラーの置いていったカセットデッキを皆の前へ。

詩織

これ、大翔を奪いにきたミドラーが置いていったんですけど、未だにカセットデッキを使っているんです。

千代

一体、何が録音されているの？

詩織

耳鳴りのような音が。それを聞くと激しい頭痛がして体が動かなくな……。

千代

大至急、分析してみるわ。一郎ちゃん、ミドラーの携帯番号を本部にメールして。

一郎

わかりました。

千代

詩織ちゃん、大丈夫。大翔ちゃんは必ずあたしたちが助け出してみせるから。

詩織

ありがとうございます。

千代

じゃ、何かわかったらすぐに連絡するわね。

千代はカセットデッキを手に玄関へと去る。

紗江

すんなり、アジトが見つければいいけど……。

一郎

大丈夫だよ。お千代さんならきっと見つけてくれる。

大輝 詩織。少し休んだらどうだ？夕飯の支度は母さんたちに任せて。

詩織 ううん。いいの。動いていた方が余計なこと考えずに済むから。

大輝 そうか……わかった。

多津子 大輝も正則くんも、着替えてきちやったら？

大輝 ああ。

紗江 少し、話せる？

正則 もちろん。

大輝、紗江、正則は二階へと去る。

多津子 カズクマンズスーツ洗濯しちゃおうかしら。明日からまた忙しくなり

そうだもんね。

詩織 あの、お母さん。

多津子 なに？

詩織 私を強くしていただけませんか？

多津子 ええ？

詩織 いつも皆さんに助けられてばかりで……今日ほど自分が情けないと

思ったことはないんです。

多津子 詩織ちゃん……。

詩織 ピンクを継がせてくださいなんて言いません。ただ、私も皆さんの力

になりたい、大翔を助けてあげたいんです。

多津子 悪いけど詩織ちゃん。一週間じゃ無理よ。

詩織 わかってます。わかってますけど、

多津子 あなたは家を守ることを考えて。それが何よりの力になるんだから。

そうよね？お父さん。

一郎 まあ、ね……。

多津子 大丈夫。大翔のことはあたしたちに任せて。ね？

と、多津子は水場の方へと去る。

詩織 ……。

一郎 そうだ。詩織ちゃんに渡すものがあつたんだ。

一郎は一輪のバラを差し出す。

一郎　これ、男前男から。

詩織　えっ……。

一郎　前回の戦いで、だいぶ気に入られたようだね。

詩織　そんなもの、捨てちゃってください。

一郎　だよ。一応、詩織ちゃんのご了解をとってから捨てようと思って。

詩織　私、捨てますから。

一郎　うん。

詩織は一郎からバラを受け取るとゴミ箱に捨てようとする。

男前　（声）捨てないで。

詩織　えっ……。

男前　（声）そのバラを捨てないでください。

詩織　……お父さん、聞こえますか？

一郎　なにが？

男前　（声）一郎さんには聞こえません。50（歳）以上の方には耳にする

ことのできない周波数で喋っています。

一郎　なにも聞こえないけど……？

男前　（声）ご無沙汰しています。怪人、男前男です。

一郎　大丈夫かい？詩織ちゃん。

詩織　男前……。

一郎　えっ？あ、どうもありがとう。

男前　（声）一年ぶりに聞くあなたの声。私はこの日を待ち望んでいました。

詩織　なによ、それ。気色悪い。

一郎　えっ、あ、ごめん。詩織ちゃんに男前なんて言われたことないから、

男前　つい……。

（声）私は今、とてつもなく舞い上がっています。

詩織　舞い上がるなんて……バカじゃないの？

一郎　ごめんね。真に受けちゃって。

詩織　あなたは男前なんかじゃない。せいぜい30点がいいところよ。

一郎 30点か……そうだよね、俺なんか。

男前 (声) その罵声が懐かしい。男前の私に罵声を浴びせる女性など詩織さんくらいのもんです。

詩織 お願いだから、どっかへ消えてちょうだい！

一郎 わかったよ。ちよっと散歩に行ってくる。

一郎は立ち上がると玄関へ。

男前 (声) 詩織さん、勘違いしないでください。私は、あなたの味方なんです。

男前 (声) 大翔くんが今、どうなっているか、知りたくはありませんか？
大翔はどこにいるの?! どうしてるの?!

一郎 (声) ごめんね。探してくるよ! (玄関を出ていく)

男前 (声) それを話す前に、あなたに直接お目にかかりたい。

男前男のテーマ。

庭から男前男が颯爽と姿を表す。そして居間に入り込む。

詩織 ……土足。

男前 (黙って引き返し) ……。

王妃に礼をするかのごとく、詩織の前に跪く男前男。

溶暗……。

幕にテロップ「一週間後」

ミドラーのアジト。

ベビーベッドの大翔に向かい、子守唄を歌っているミドラー。

その横でイーゲンがウトウトしている。ついにはイビキをかきはじめ……。

ミドラー ……イーゲン。

イーゲン (イビキ)

ミドラー イーゲン起きろ！

イーゲン (目を覚まし) はっ！

ミドラー 私はお前を寝かしつけているのではないのだぞ！

イーゲン 申し訳ございません。ミドラー様の子守唄があまりに心地よく……。

ミドラー 当たり前だ。子供の頃、地元の、のど自慢大会で優勝した私の美声をなめるではない。

イーゲン さすがでございます。

ミドラー 眠いは私の方なのだぞ。お前がヒロちゃんの夜泣きに気づかないおかげで、日に3時間も眠れていないのだ。

イーゲン 承知しております。

ミドラー 承知した上で、貴様は日に12時間も眠っているのか？

イーゲン 私(わたくし)の怪人としての性質上、ご飯を食べるとすぐに眠たくなるのでございます。

ミドラー 子供か！馬鹿者！

ここへ大量のオムツを買い込んだ男前男が現れる。

男前 お待たせいたしました。

ミドラー ご苦労だった。男前男。

男前 特売のオムツ、計6点購入してまいりました。

ミドラー 6点だと?!お一人様一点ではなかったか？

男前 購入したものはトイレへと隠し、素知らぬフリをしてまたオムツをレジに持って行きました。

ミドラー 6度もレジを通すとは……おぬしもなかなかの悪者のう。

男前 ミドラー様のためなら、なんなりと。

ミドラー イオンポイントは使ったのか？

男前 いえ。本日はポイント10倍デー。貯めた方がお特と判断致しました。

ミドラー お前はなにからなにまで男前ではないか。

男前 ありがたき幸せ。

イーゲン ミドラー様、こいつは男前などではありません。

ミドラー なに？

イーゲン 男前よ。ひとつ、買い忘れたものがあるんじゃないか？ミドラー様は粉ミルクも買ってこいと言ったはずだ。

男前 今から行ってくる。

イーゲン 聞きましたか？ミドラー様。こいつは粉ミルクを買い忘れていたんです。

男前 そうではない。ウエルシアで特売をやっていることが判明したのだ。なんだと？！

ミドラー ここから数キロ離れたウエルシアに、わざわざ買いに行くと言うのか？！

男前 ウエルシアもお一人様一点まで……しかし3回はレジを通すつもりです。

ミドラー さすがだ男前男。脳みそが筋肉で出来ているイーゲンとは格が違う。イーゲン クソツ！

その声に驚き、泣き出す大翔。
慌てるミドラーとイーゲン。

ミドラー あー、ごめんね、ヒロちゃん。このおじちゃんが大声出すからだよねえ？

イーゲン すまない！ヒロちゃん！すまない！

ミドラー イーゲン！その恐ろしい顔を近づけるな！

イーゲン 申し訳ありません！

ミドラー せめて笑え！笑うのだ！

イーゲン はっ。(必死に笑顔で)ごめんね、ヒロちゃん、ごめんね。

ミドラー なんだ、その、この世の終わりのような表情は！

イーゲン 私なりの笑顔です。
ミドラー 恐ろしい、恐ろしすぎる……。

男前男はオムツの入っていたビニール袋を大翔に向かい、ガサとこすり始める。

ミドラー なにをしている？

男前 これは、赤子が母親の胎内で聴いていた音色に近いそうです。こうすれば大翔くんは泣き止むはず……。

次第に泣き止む大翔。

男前 どうやら、落ち着いてくれたようだ。

ミドラー 改名しよう、男前男。お前は今日から「満点パパ男」だ！

男前 お言葉ですがミドラー様。その名前をいただくのは、もう少しお待ちいただきたい。ほどなく、その名にふさわしい男になってみせます。

ミドラー ほう……。

男前 では、ウエルシアに行つてまいります。

男前男はオムツを手にもその場を去る。

イーゲン ……いかがいたしましたしょう？

ミドラー 追え。

イーゲン かしこまりました。

イーゲンがその後を追う。

ミドラー じゃあヒロちゃん、ママも一緒に寝ようかな。

そう言いながら、ミドラーはベビーベッドを運び、去る。
照明変化……。
同じ頃。

新聞を読んでいる一郎。

その傍らでは、マッサージチェアに座って背中をほぐしている多津子。気持ちよさそうな声を出している。

一郎 ……母さん。

多津子 なあにい？

一郎 朝から、艶かしい声出さなideくれるか。

多津子 しょうがないじゃないの……出ちゃうんだから……。

一郎は新聞を畳むとラックへ。その時多少、腰が痛み、

一郎 アタタタ……。

多津子 (寝息をたて) ……。

……あのさ、母さん。リミットまであと2時間だ。アジトも見つかっていないこの状況じゃ大翔の身になにが起こるかもわからない。俺はカゾクマンの解散を宣言しようと思ってる。

話を聞いていた詩織。洗濯物のバスタオルを手に居間へ。

一郎

本来なら、大翔を見捨ててでも日本の平和を守るのがカゾクマンの使命だ。でも俺にはどうしてもできないんだよ。大事な孫を見捨てるなんて……。

多津子 (いびき)

一郎 母さん……。

詩織 ありがとうございます。大翔をそこまで想っていたいで。

一郎 いや。きっとカゾクマンとしては間違った判断だと思う。でもその前に、俺は大翔のじいちゃんだから。

男前 (声) 詩織さん、今、話せますか？

男前 ……。

詩織 ちゃん、もうその手には乗らないよ。

男前 (声) 今すぐ一郎さんに伝えてください。

一郎 この前みたいに、また調子に乗ってると思われるのは嫌だからね。

男前 (声) カゾクマンを解散する必要はない、と。

詩織 どうして？

一郎 どうして？って……俺はなんせ、30点だからね。

男前 (声) おそらく、ミドラー様が大翔くんに手をかける可能性は、限りなくゼロに近い。

詩織 ゼロ……。

一郎 ゼロって、0点ってことかい？それはさすがにショックだな。

詩織 どうしてそう思うの？

一郎 そりゃ誰だってショックだよ。男として0点なんて言われたら。

男前 (声) ミドラー様は、もはや我が子の様に愛情を注いでおられる。

多津子 (目を覚まし) なにがショックなのよ。別に0点でいいじゃない。

一郎 母さん。起きてたのか。

多津子 詩織ちゃんに、男として見られたいわけ？お父さんは。

一郎 そういうこと言ってるんじゃないよ。

多津子 だったら0点でも構わないじゃない。(詩織に) ねえ？

男前 (声) のちほど、伺います。

多津子 義理の父親としては100点だと思うでしょ？詩織ちゃん。

詩織 もちろんです……。

多津子 それでいいじゃない。何よ。この世の終わりみたいな顔しちゃって。

一郎 そんな顔してないだろう。

多津子 してたわよ。この目ではつきり見たんだから。

一郎 ………。

多津子 (一郎を真似て) 「0点ってことかい？それはさすがにショックだな」

ガーン。

一郎 詩織ちゃん。洗濯物、干すんだろ？

詩織 あ、はい……。

詩織は庭へ。バスタオルを干し始める。

多津子 (一郎を真似て) 「0点ってことかい？それはさすがにショックだな」

ガガーン。

一郎 ………。

ここへ玄関扉の開く音。紗江と正則が帰ってくる。

紗江 ただいま。

正則 ただいま帰りました。

詩織 おかえりなさい。

多津子 (一郎を真似て)「0点ってことかい？それはさすがにショックだな」

ガンガンガン。

紗江 え？なにしてんの？

多津子 お父さんの真似よ。

紗江 全然似てくない？

多津子 それがそっくりなのよ。ねえ？お父さん。

一郎 正則くん。どうだったんだ？検査の結果は。

正則 眼窩底骨折……網膜剥離……外傷性緑内障……。

一郎 ええ？！

正則 その、どれでもありませんでした。

皆 (ズッコケる)

正則 ただ、著しく視力は低下していると……。

紗江 だから大病院の紹介状もらってきたとこ。

正則 詳しいことがわかるまでは、もう少し時間がかかりそうです。

一郎 そうか……。

多津子はバスタオルを干している詩織が目に入り、

多津子

詩織ちゃん、そんなんじゃないやダメよ。(庭に下り、タオルを見て)ほら、しわになってる。言っただでしょ？もつと腕を振り上げて、きっちり腕を下ろす。もう一度やり直し。

詩織 はい、すみません！(多津子の言う通りに)

多津子 はい！すぐにパンパン！

詩織 はい！(とバスタオルをパンパンして)

多津子 腕だけじゃダメよ！もつと腰を入れて！

詩織 はい！(と腰を入れてパンパンする)

多津子 そう！そうやってバスタオルは干して！

詩織 はい、すみません！

紗江 最近、母さん厳しくない？別にいいじゃん。バスタオルがしわになるくらい。

多津子 ダメよ。そんなの絶対許さない。

紗江 母さんがそんな干し方してるの、見たことないよ。

多津子 昔はやってたの。これは佐久間家の伝統なんだから。

玄関扉の開く音。

千代 (声) お邪魔するわよ。

一郎 お千代さんだ！

ラジカセを手に入ってくる千代。

一郎 司令官に敬礼！

皆 ハッ！（ボージング）

千代 大輝は？

多津子 今、アジトを探しに……。

一郎 何か新しい情報は見つかったかい？

千代 ええ。まずはこれを聞いて。大事な手掛かりになるかもしれない。

千代はラジカセの再生ボタンを押す。皆、耳鳴りの音に苦しむ。

詩織 これです、この音……。

紗江 なによ、これ……。

正則 ……頭が……ガンガンする……。

多津子 ……身体が……重い……。

一郎 ……この音が、なんだっていうんだ……？

千代 問題は……このあとよ……。

曲が流れてくる。

紗江 ……え？なにこの曲。

多津子 これは…××（昔のアイドル）の「懐メロのタイトル」…。

千代 そう。おそらくミドラーは××の大ファン…このあとに録音されてるのも、全て××の曲なのよ。

紗江 ミドラーはこのテープの上に、間違って××をダビングしちゃったのね。

一郎 これが、どんな手掛かりになるんだい？

千代 彼のディナーショーはプレミアチケットなの。今日はその発売日。つまり私たちがディナーショーのチケットを手に入れることができたから、ミドラーと取引できるかもしれない…。

紗江 発売は何時から？

千代 すでに10分が過ぎているわ。みんな！すぐに手分けしてチケットぴあに電話して！

一郎 了解！母さん！俺の携帯は？！

多津子 （寝室を指し）あっち！詩織ちゃん！司令官に、お茶！

詩織 はい！

紗江 あたしたちは、ネットで買えるかどうか試してみる！

一郎と多津子は慌てて寝室へ。

紗江と正則も急ぎ足で二階の方へと去る。

詩織も台所へ行き、お茶の用意を。

千代は携帯で、チケットぴあに電話する。

千代 ……お願い、繋がって…（繋がらず）もう！

千代が何度も何度も電話をかける傍ら、詩織がお茶を入れる。

高い位置から急須を傾けるお茶の入れ方に、

千代 ……ものすごいお茶の入れ方ね。

詩織 お義母さんから教わったんです。低い位置から高い位置へ…お茶を一滴もこぼさないように…。

千代 そんなの無理よ。

詩織

一度もできた試しがありません。でもこのやり方が美味しいお茶を入れる一番の方法なんだそうです。(お茶を)どうぞ。

千代

ありがとう。(と一口飲み)……そうかしら。別に普通に入れたのと、何も変わらないけど……。

詩織

私の入れ方がまだまだなんだと思います。

男前

(声) 詩織さん。到着いたしました。

詩織

(バラを見て) ……。

男前

(声) 5分で構わない。ドトールへ来ていただけませんか？

詩織

……わかったわ。

千代

その必要はないわよ。男前男。

詩織

司令官？！

男前

(声) なぜだ？私の声は、50(歳)以上の方には聞こえないはず。

千代

(補聴器を外してみせ) 最近の補聴器は性能がいいのよ。

男前

(声) なるほど。補聴器とは誤算でした。

千代

あなたがドトールで逢瀬を繰り返している情報は掴んでいた。

男前

リミットが近づいたこのタイミングで、あなたは必ず詩織さんの前に現れる。私はそう踏んでいたのよ。

千代

(声) あなたの加入で、地球防衛軍が少しはマシになったようですね。

男前

出ていらつしやい。逃げても無駄よ。

千代

もういます。

男前

もういます。

いつの間にか庭にいた男前男に驚く千代と詩織。

男前

初めまして、元グリーン。かつて日本国中を熱狂させた、先代カゾク

マンの強さを垣間見た気がします。

千代

それはどうも。

男前

詩織さん。大翔くんの粉ミルクはこちらで構いませんか？

詩織

そう。それよ。

男前

それから詩織さんにたってのお願いがあります。

詩織

お願い？

男前

あなたの母乳をいただきたい。(搾乳機を出し) ウェルシアで搾乳機

を購入してまいりました。手伝います。さあ、今すぐ母乳を！

詩織 手伝う？

男前 私は不憫でなりません。この一週間あなたの母乳を飲むことのできない大翔くんが……。

千代 変態じゃないの、こいつ。

詩織 そうなんです。気色悪いんです。

男前 詩織さん。冗談はさておき、搾乳していただけませんか？

千代 冗談に聞こえなかったわよ。

詩織 そんなこと言われて、搾乳なんてできるわけないでしょ。

男前 待ち望んでいるんですよ。大翔くんは、あなたの母乳を。

千代 あんたでしょ！待ち望んでいるのは！

詩織 絶対にイヤ！

男前 わかりました。お約束します。詩織さんの母乳は絶対に見ません。

詩織 ……本当に？

男前 しかし、ぬくもりだけは感じさせていただきたい。

千代 バカじゃないの！こいつ！

詩織 心底気色悪いんです！

千代 詩織ちゃん。どうしてこんな気色悪い男と……？

詩織 大翔のためです。ミドラーは子育てをしたことがない。ミルクの分量やおむつを変えるタイミングをレクチャーしていました。

千代 どうしてあたしたちに言わなかったの？

詩織 そういう条件だったんです。大翔の命を保証する代わりに「二人きりで会おう」って……。

男前 おかげで大翔くんは何不自由なく暮らしています。詩織さんの母乳

を飲めない以外は。

千代 まだ言うか！

ここへ玄関扉の開く音。大輝が帰ってくる。

大輝 ただいま。

詩織 (駆け寄り) 大輝さん！

大輝 お前は……怪人男前男！(戦闘態勢へ)

千代 大輝！手を出しちゃダメ！男前男は、大翔ちゃんにつながる唯一の

手がかりなのよ！

くっ……！！

大輝
男前
手を出してきたところで、あなたに負ける気はしませんがね。

大輝
大翔は？！大翔は今、何処にいる？！

男前
愚問ですよ、大輝さん。それを聞かれて、私が答えるとお思いで
すか？

大輝
だったら何をしに来た？！

男前
詩織さんと取引をしに来ました。

大輝
取引だと？！

正則
（声）司令官！チケット取れました！ネットだと割と簡単に、

と現れたところで男前男が目に入る紗江と正則。

正則
お前は！

紗江
怪人男前男！（戦闘態勢へ）

千代
紗江！正則さん！手を出しちゃダメ！男前男は、大翔ちゃんにつな
がる唯一の手がかりなのよ！

紗江／正則
くっ……！！

男前
手を出してきたところで、あなた方に負ける気はしませんがね。

紗江
大翔は？！大翔は今、何処にいるの？！

男前
愚問ですよ、紗江さん。それを聞かれて、私が答えるとお思いで
すか？

紗江
だったら、何をしに来たのよ？！

男前
詩織さんと、取引をしに来ました。

紗江
取引ですって？！

多津子
（声）お千代さん！電話つながった！今、お父さんが、

と現れたところで男前男が目に入る多津子。

多津子
お前は……怪人男前男！（戦闘態勢へ）

千代
多津子さん！手を出しちゃダメ！男前男は、大翔ちゃんにつながる
唯一の手がかりなのよ！

多津子

くっ……！

男前

手を出してきたところで、あなたに負ける気はしませんかね。

多津子

大翔は？！大翔は今、何処にいるの？！

男前

愚問ですよ、多津子さん。それを聞かれて、私が答えるとてもお思いですか？

多津子

だったら、何をしに来たのよ？！

男前

詩織さんと、取引をしに来ました。

多津子

取引ですって？！

一郎

(声)お千代さん取れたよ！いやー、すごい人気なんだね、××って。

と現れたところで男前男が目に入る一郎。

一郎

お前は……怪人男前男！（戦闘態勢へ）

千代

一郎ちゃん！手を出しちゃダメ！大翔の居場所はわからない！男前は詩織ちゃんと取引に来た！以上！ちよつと黙ってなさい！

一郎

なに怒ってんだい？お千代さん。

男前

私もこのやり取りに飽き飽きしていました。どうもありがとう。

千代

どういたしまして。

詩織

取引って……？

男前

詩織さん。あなたが大翔くんに会える方法が、一つだけある。

男前男は胸ポケットから離婚届を出しテーブルへ。

男前

これにサインしてください。

詩織

離婚届……。

男前

そうです。あなたは大輝さんと離婚し私の妻になる。それが大翔くんに会える唯一の方法なのです。

詩織

……。

大輝

何を言ってる？いずれお前たちは、大翔を殺すつもりなんだろう？

男前

ミドラー様が大翔くんを殺すなどありえない。

大輝

なに？

男前

あなた方と同じく、ミドラー一族も世襲制ですから。

大輝

まさか……ミドラーは大翔を後継者にするつもりか？！

男前

その通り。ミドラー様は××の大ファンが故に理想が高く、いつしか婚期を逃してしまった。あなた方が後継ぎ問題で切迫していたのと同じく、ミドラー一族も後継者の育成が急務なのです。

大輝

そんなことは絶対に許さない！

男前

どうやって？

大輝

(言葉に詰まりつつ)……今すぐ、お前を倒す！

男前

いいんですか？大翔くんの居所がわからなくなっても。

大輝

……クソッ！

男前

そういうことだ！イーゲン！

イーゲンが庭から堂々と姿を現す。

いつの間にかイーゲンが立っている。

男前

あの怪人の名はイーゲン。威厳がありすぎる故に名付けられました。しかし、その威厳のおかげで、尾行がすぐにバレる。

イーゲン

男前よ。お前は男のくせに喋り過ぎだ。

男前

イーゲン。お前がドトールにいたのは最初からわかっていた。あんな威厳を放ちながらコーヒーを飲む男はお前しかない。

イーゲン

それは褒め言葉と受け取っておこう。

男前

私はミドラー様を裏切っていたのではない。全ては事を有利に運ぶための行動だ。

イーゲン

ふざけるな。お前がその女に惚れただけのことだろう。

男前

それだけではない。ミドラー様は子育てに疲れている。詩織さんに任せれば、ミドラー様の負担が減るのを想定してのことだ。

イーゲン

……まあいい。ミドラー様にはきっちりと報告させてもらう。

その場を離れるイーゲン。

詩織

大輝さん。ごめんなさい。お義父さんお義母さん、すみません。

詩織は離婚届に記入を始める。

大輝 詩織……。

詩織 今、大翔に会う方法はこれしかない。

大輝 でも、お前は、

詩織 私はどうなってもいいの。大翔と離れ離れになるくらいなら死んだ方がマシだから。

男前 私の妻になるということでよろしいですか？

詩織 ……ええ。

男前 私は、今日という日を一生忘れません……。

詩織 (涙を堪え) 大輝さん、書いて。

大輝 ……。

詩織 ……お願いだから。

大輝は屈辱ながらも離婚届にサインする。

大輝 (書いて) 詩織。今ただだぞ。必ず、お前も大翔も救いに行くから。

男前 少しだけ待っててくれ。

大輝 そうはさせません。大翔くと詩織は、私が必ず幸せにしてみせます。

男前 ……書いたぞ。

大輝 (確認し) 確かに。では、誓いのキスを。

詩織 え、キス？

男前 そうです。大輝さんの目の前で。

千代 どこまで気色悪いの！あんたは！

男前 (離婚届を破こうと) いいんですか？大翔くんに会えなくなっても。

詩織 …… (目を瞑り) どうぞ。

男前 では参ります。

男前男は詩織にキスをする。

思わず目をそらす大輝。

その時間があまりに長く……。

紗江 ……え、長くない？……え、長すぎない？

男前 (やめて) では、大翔くんの元へご案内します。

詩織

皆さん、ご迷惑とご心配ばかりかけて本当に申し訳ありません。

そう言つて深々と頭を下げる詩織。
それから庭へ降り、去ろうとする詩織に、

多津子

詩織ちゃん。

詩織

(立ち止まり)

多津子

なにかあったら、バスタオルを干したこと、お茶を入れたこと、雑巾掛けたこと、ハタキでホコリを払ったこと……私が教えた全ての事を、ちゃんと思ひ出して。

詩織

……わかりました。

男前

では皆さん、ごきげんよう。

詩織を連れ、去っていく男前男。

重い空気が流れる……。

大輝は詩織たちを追おうと、立ち上がる。

千代

大輝。動いちやダメ。

大輝

これが動けずにいられるか！

千代

十条のおばちゃんとして言ってるわけじゃない。これは司令官としての命令よ。

大輝

じゃあどうしろつて言うんだよ？！

千代

大丈夫。私にも考えがあるから。

大輝

考えつて……？

千代

ディナーショーのチケットは、何枚手に入れた？

紗江

うちらは2枚……。

一郎

こっちも2枚だよ。それでちょうど、売り切れたつて……。

千代

売り切れなら、こっちのものよ。一郎ちゃん。すぐにミドラーに電話して。

一郎

了解。

一郎がミドラーに電話する。

一郎
紗江

……ミドラー！……すみません！間違えました！（切る）
もう！ちよつと貸して！

紗江が電話を奪う。
溶暗……。

同日、数時間後。

ミドラーのアジト。

そこへ男前男が、手首を縄で縛り目隠しされた詩織を連れて、
現れる。

詩織

ねえ。もう着いたんでしょ？早く大翔に会わせて。

しかしベビーベッドはもぬけの殻……。

男前

……まずいことになった。

詩織

まずいつて？何があったの？

テーブルの上には置き手紙。それを手に取る男前男。そこには
血塗られた文字で「破門」と書かれている。

男前

……どうやらミドラー様は、私の目論見をお見通しだったようだ。

詩織

お見通して……一体何を？

男前

私は……大翔くんととも、あなたと駆け落ちするつもりだった……。

詩織

駆け落ち？！

男前

この腐れきった日本を離れ、海外で穏やかに暮らすつもりでした。

詩織

ミドラーを、裏切るつもりだったの？

男前

私は、ミドラー様との生活に疲弊していました。スーパーのチラシを

見比べ、安い食材を求めては自転車でひた走る。帰ってくれば炊事、
洗濯、掃除、その全てをこなさなければならぬ。

詩織

甘いわよ。そんなの主婦なら当たり前、私だって毎日やっていたわ。

男前

夜になれば、私は歌舞伎町のホストクラブへ働きに出ていました。

詩織

ええ？

男前

稼いだお金は、全てジョッカーのアルバイト代に消えていたのです。

詩織

ジョッカーが、バイト……。

男前

バイトで雇ったジョッカーなど強いはずもなく、カゾクマンにやら

れてはまた、弱いジョッカーを雇うために歌舞伎町へ通う毎日……

私はこんな生活を送るために男前男になったのではないのです！

詩織 男前……。

男前 かつては私も夢見ていました。ミドラー様が地球を征服すれば、どんなに幸せだろうかと……でもそれははや叶わぬ夢。

詩織 カヅクマンがいるものね。

男前 悪いが詩織さん、平均年齢が50（歳）に迫った戦隊ヒーローなど我々の敵ではありません。我々の敵は自衛隊。テロ対策法はおそらく、自衛隊や警察がミドラー様に直接手を下すためのものでしょう。司令官もそう言っていたわ。

男前 あの法案が国会を通った日、私は一族を離れる決意をしたのです。

詩織 ねえ。そろそろこの縄解いてくれない？

男前 今のミドラー様に勝ち目は無い。

詩織 ねえってば。

男前 加齢からくる肩こりや腰痛は年々ひどくなっている。

詩織 いい加減解いてよ！

男前 私は毎日毎晩、肩や腰を丹念にマッサージしなければならなかった。

私だって若くはない、マッサージしてほしいのは私の方なのに。

聞けよ！男前！早くこの縄を解いて！

男前 申し訳ありません。

男前男は目隠しを外し、縄を解く。

詩織 大翔は！大翔はどこにいるの？

男前 わかりません。

詩織 バカ！なんでそれを早く言わないのよ！

男前 申し訳ありません。

詩織 どこにいるの？！

男前 わかりません。

詩織 ここには戻ってくるんじゃないの？！

男前 申し訳ありません。これを見てください。

男前男は「破門」と書かれた置き手紙を掲げる。

詩織 破門って……どういうこと？

男前 これはつまり、私の死を意味します。すなわち、一緒にいる詩織さんも命を狙われかねない……。

詩織 ………。

男前 行きましょう。あなたの死を一番望んでいないのは大翔くんのはずなのですから。

詩織 ……わかったわ。

男前 裏口から出ましょう。こっちです！

男前男と詩織はその場を離れる。

少ししてその背後から、抱っこ紐をしたイーゲンが現れる。

イーゲン ………。

イーゲンは二人のあとを追う。

照明変化……。

同じ頃。

ブルーのスーツを着た大輝が神妙な面持ちで現れると、ダンスを開け、ヘルメットを装着。

少ししてイエローのスーツを着た紗江が居間へ。

大輝 あと何分？

紗江 約束の時間まで、あと10分……。

大輝 そうか……。

紗江 (ヘルメットを装着し) いよいよね。

大輝 ああ。

紗江 まさか、本当にチケットを取りにくると思わなかった……。

ここへピンクのスーツを着た多津子が水を手に台所から登場。

大輝 大丈夫か？親父。

多津子 (薬箱から痛み止めを探しつつ) 今、痛み止め飲ませるところ。

紗江 ええ？さつきまで調子良さそうだったじゃない？
多津子 スーツに足通した途端、（腰を）やっちゃったのよ。
紗江 なにやってんのよ、こんなときに。

そこへグリーンのスーツを着た千代がやってくる。手には紙袋。

大輝 おばちゃん……。

多津子 やっぱり似合うわね。お千代さんには、グリーンが。

千代 久しぶりだから気合いが入るわ。紗江。チケツトは？

紗江 ウチの人が引き換えに行ってること。時間かかってるみたい。

千代 急がせて。チケツトがないと始まらないから。

紗江 了解。（とLINEを）

千代 多津子さん、これ（紙袋）、どうする？

多津子 もちろん取っておくわよ。詩織ちゃんがウチに戻ってきたときのた

めに……。

大輝 まさか、母さん……。

千代 そう。多津子さんは詩織ちゃんのピンクスーツを発注していたのよ。

千代が紙袋からピンクスーツを出す。胸には「嫁」の文字。

多津子 大輝。また詩織ちゃんを佐久間家のお嫁さんとして迎え入れてくれるわよね？

大輝 当たり前だ。でもそのスーツは着させない。10分後にはミドラー一族と決着をつけるんだらう？

多津子 ……そうね。

玄関扉の開く音。チケツトを手にした正則が慌てて入ってくる。

正則 遅くなりました。

紗江 ちよつと！なにしてたのよ！

正則 ごめん。お金が全然足りなくて……。

紗江 お金？

多津子 チケット代なんて1万円くらいのものでしょうか？

正則 それが……48000円もしたんです。

多津子 4万8000円？！

紗江 それってあれよね？4人分の話よね？

正則 いや1人分だよ……。

紗江 つてことは20万近くかかったわけ？

正則 しょうがないから、急遽アコムに寄ってたんだ。

多津子 銀行に寄ればよかったじゃないの。

正則 行きました。でも残高が、5000円しかなくて……。

紗江 全く……どこまで貧乏なのよ！あたしたちは！

千代 仕方がないわ。ホテルのディナーを食べられる上に、××を間近で見れるんだから。48000円でも安い方よ。

多津子 もしかしてお千代さん、××のファン？

千代 嫌いじゃないわ。多津子さんは？

多津子 あたしも。むしろ、好き。

千代 ミドラーは2枚で十分よ。残りの2枚は、あたしと多津子さんで行きましょう。

多津子 了解。

紗江 「了解」じゃないわよ。残高5000円しかないんだよ？メルカリで売り捌くからね。

紗江は2枚分のチケットを引き出しにしまう。

千代はもう2枚のチケットを手に、

千代 みんな、いいわね？私が、ミドラーにチケットを渡した瞬間が合図よ。

一気にカゾクマン大作戦を決行する！

多津子／大輝／紗江 はっ！

ここで寝室から出てくる一郎。なぜか普段着である。

一郎 お千代さん。いや、司令官。カゾクマン大作戦は中止してください。

千代 なに言ってるの？一郎ちゃん。

一郎 ああの作戦は危険だ。ご近所にも迷惑がかかる。
他に、良いアイデアがあるの？

千代 ……ミドラーと二人きりで話させてください。
二人で？

一郎 ミドラーとは常に身体を張って戦ってきた。その相手とテーブルを
囲うチャンスは滅多にありません。できることなら、話し合いで解決
したいんです。

千代 ……ほんと、昔のまんまね、一郎ちゃんは。
一郎 ……？

千代 今だから話すけどね、私はずっとあなたがレッドを継ぐことに反対
していたのよ。

一郎 えっ……。

千代 一郎ちゃんは優しすぎる。怪人やジョッカーを気絶させるだけで、絶
対に倒すことはしない。ヘドラーを倒したあと、ミドラーを仕留める
ことができなかったあなたに、レッドが務まるとは思えなかったの。
……………。

千代 それが、あたしが司令官に志願した本当の理由よ。

一郎 ……確かに俺は、レッドには向いてないと思います。でも最後に、俺
のレッドとしての仕事をさせてください。ミドラーと話させてくだ
さい。(頭を下げ) お願いします。

多津子 (頭を下げ) あたしからもお願いします！

千代 ……あなたのお父さんが言ってたわ。「これからは力で解決する時代
じゃなくなるから」って。その言葉と一郎ちゃんを信じてみる。

一郎 ありがとう、お千代さん。

千代 千代はチケットを一郎に手渡し、

千代 しっかりやってちょうだいね。

一郎 はいっ。

幕が降りる。

人通りの多い、商店街が映し出される。

そこを歩いている詩織と男前男。ふと、男前男が立ち止まる。

男前 ……詩織さん、感じますか？

詩織 ええ……。

男前 背後から迫りくる、この威厳を……。

詩織 (感じて) ……すごい、威厳……。

男前 イーゲン！追ってきても無駄だ！お前の尾行はすでにバレている。

イーゲンが現れる。

詩織 大翔！

イーゲン 別に尾行していたわけじゃない。お前たちをどこでなぶり殺そうか、考えていただけだ。

男前 ここは人目につく。警察がすぐに駆けつけるぞ。

イーゲン まあ、そうだろうな。

男前 すぐそこにイオンがある。その駐車場はどうだ？

イーゲン ……いいだろう。

イーゲンは引き返し、去る。

男前男は胸のバラを詩織に差し出し、

男前 これで大輝さんをお呼びください。くれぐれもイーゲンに見つから

ないように。

詩織 男前……。

男前 ありがとうございます。先程から男前と言ってください。それが何より幸せです。

詩織 そういう意味じゃない。名前だから呼んでるだけよ。

男前 わかっています。さあ、行きましょう。

詩織と男前はイーゲンのあとを追ひ、去る。

幕が上がると、一郎がひとり居間に座っている。

一郎 まあ、あがってくれ。

ミドラーが玄関の方から恐る恐る居間へ。

ミドラー ……何を企んでいる？

一郎 (笑顔) 何も企んじやいないよ。今日はミドラーと世間話でもしよう
と思っつな。

ミドラー 世間話だと？

一郎 お茶でも飲むか？

ミドラー 毒でも盛るつもりなのだろう？

一郎 そんなことは絶対にしないよ。今は一時休戦だ。母さん。

多津子、寝室から出てきて、

多津子 なあに？

ミドラー いたのか、ピンク。

多津子 (笑顔) そりゃいるわよ。ここはあたしたちの家なんだから。

一郎 母さん、ミドラーにお茶。

多津子 はいはい。

多津子は台所へ行き、一郎は座布団を敷く。

一郎 いつまで立ってるんだ。座ってくれよ。

ミドラー ……怪しい、怪しすぎる。

一郎 今日は手出しはしない。約束するから。

ミドラー まあ、よい。貴様らが手を出してきたところで、私に敵うはずもない
からな。

ミドラーは座布団に座る。

詩織

(声) 大輝さん。大輝さん。

大輝、水場の方から出てきて、

大輝 詩織？！

一郎 え？詩織ちゃん？

ミドラー いたのか？！ブルー！

詩織 (声) 私の声に反応しないで。ミドラーにバレてしまう。

大輝 (笑顔) いや、ちょっと、洗濯物回してたんだよ。

詩織 (声) 大丈夫。この声は50歳以上の人には聞こえない周波数だから。

多津子が台所から出てきて、

多津子 ミドラー悪いわね。安いお茶だから、あなたの口に合うかどうかかわか

らないけど。

詩織 (声) だから、そこにいる誰にも、私の声は聞こえてない。

多津子 (茶菓子を) よかったら、これも食べて。毒は盛ってないから。

多津子はお茶を入れ始める。

詩織 (声) 今、大翔を連れたイーゲンとイオンの駐車場に向かっている。

大輝 ！！

詩織 (声) 私なら平気。男前男が私を守ってくれてるから。事情はあとで説明する。

ミドラー ものすごい(お茶の)入れ方をするのだな。

多津子 これが佐久間家の伝統なのよ。こうやって入れると安いお茶もいくらかおいしくなるんだから。

詩織 (声) 今すぐ来れる？来れるなら猫の鳴き真似を、来れないなら犬の鳴き真似をして。

多津子 (お茶を出し) どうぞ。

ミドラー ああ。

大輝 ニヤー。

一郎 (庭を見て) 猫だ。(ミドラーに) この辺、多いんだよ。野良猫。

多津子 お隣さんがエサやるもんだからさ。もうほんとやんなっちゃう。

大輝 聞こえたか？紗江。

紗江が台所の方から現れる。

紗江 もちろん。

ミドラー いたのか?! イエロー!

紗江 (笑顔) ちょっと、洗い物してただけじゃない。

詩織 (声) 紗江さんは? 来れる?

紗江 ニャー。

一郎 今度はメス猫だ。夫婦かな。

詩織 (声) ありがとう。大輝さん、紗江さん。

多津子 ミドラーは大派? それとも猫派?

ミドラー 断然、猫だ。

多津子 やっぱり合わないのかしらね。あたしもお父さんも断然、犬よ。

一郎 いつか飼いたいとは思うんだがな、死んじゃったときのこと考える

と、なかなか。(ミドラーに) なあ?

ミドラー そうだなあ……って一体、何の話をしているのだ!

一郎 だから言ってるだろ? 世間話しようって。

ミドラー もうよい! 早くチケツトをよこせ!

一郎 わかったよ。

一郎はチケツトをミドラーに手渡す。

ミドラーは老眼鏡をかけ、チケツトを確認する。

紗江 あんた、聞こえてる?

玄関の方から正則が出てきて、

正則 え? なにを?

ミドラー いたのか?! グリーン!

正則 ちょっと、靴磨いてたんだよ。

紗江 え? 聞こえてないの?

正則 猫の鳴き声?

紗江 ……あんた、いくつだっけ?

正則 今年、50（歳）だけど。

紗江 何でもない。

正則 え？なにが？

襖を開け、現れる千代。

千代 大輝！紗江！今すぐイオンにいつてらっしゃい！

紗江 おばちゃん、聞こえるの？！

ミドラー いたのか？！元グリーン！

千代 （笑顔）お線香あげにきただけよ。

多津子 イオンって？一体何しに行くのよ？

千代 多津子さんも連れてって！まずはイオンが先決よ！

紗江 了解！行こう！母さん！

多津子 なんで？今？！

紗江 ちよつと買い忘れたものがあるのよ！

大輝は嫁。ピンクのスーツを手にダッシュでイオンへ。

紗江は多津子を無理矢理引き連れて去る。

千代も襖の奥へと引き下がり、取り残される正則。

一郎 なんだろう？買い忘れって？

正則 さあ……。

ミドラー 私がいるにも関わらず買い物に行くとは、本当に何も企んでいないようだな。

一郎 用心深いな、ミドラーも。そう何回も言ってるだろ。

ミドラー 貴様と世間話をしている暇はない。（老眼鏡をかけ）チケットは確かに受け取った。

ミドラーは老眼鏡を外し、チケットを鞆の中へ。

一郎 ミドラーは老眼か？

ミドラー それがどうした？

一郎 俺は近視でな、今のところ、老眼鏡はかけずに済んでるよ。

ミドラー レッド。貴様と世間話はしなないと云っただろう。

一郎 それだけ俺たちは歳をとった。そろそろ戦うのはやめにしないか？

ミドラー ……なんだと？

一郎 ミドラーの目的はなんだ？

ミドラー 世界征服だ。

一郎 世界を征服して、なにがしたい？

ミドラー 世界中の人間をミドラー一族の配下にする！

一郎 それで？

ミドラー それで？

一郎 それで、どうするんだ？

ミドラー 世界を、私の思い通りにしてやる！

一郎 例えば？

ミドラー 例えば？

一郎 もうちょっと具体的に言ってくれよ。

ミドラー 世界を、私の言いなりにするのだ！

一郎 どんな風に？

ミドラー どんな風に？

一郎 あんまり具体的じゃなかったからさ。

ミドラー ……だから、あれだ！好きなときに好きなものを食べ、寝たいときに寝る！行きたいところに行っても出かけ、手に入れたいものは何でも手に入る世の中だ！全ての人間は私のために身を尽くし、私を崇め奉るのだ！

一郎 あんまり具体的じゃなかったけど、まあ、いいか。

ミドラー ぬうう……。

一郎 それがもし叶ったとしよう。でも、そんな人生つまらないと思わないか？ミドラー。

ミドラー なに？

一郎 俺たちは欲深い生き物だ。ひとつ夢が叶ったら次。またその夢が叶ったら次。でも、その全てが叶ってしまったら、反対につまらなくなる気がしてならないんだよ、俺は。

ミドラー ……。

一郎 人生は困難があるから面白い。苦しみがあるから喜びがあるんだ。夢が叶ったら笑い、叶わなかったら泣く。その一喜一憂があつてこそ面白い人生って言えるんじゃないかな？

正則 (感動している) ……お義父さん。

一郎 俺ももう還暦を迎えた。そう遠くないうちに、ミドラーも還暦を迎えるんだろう？もう争いごとはやめにして、お互い穏やかに暮らさないか？

ミドラー ……貴様が、よくも偉そうなことを……。

一郎 別に、偉そうに言ったつもりは――

ミドラー 貴様は、父親を殺されたことがあるか？！

一郎 ……！！

ミドラー 母親が殺された経験があるのか？！

一郎 それは……。

ミドラー 元グリーンもよく聞け！私の両親はお前たち先代カゾクマンに殺されたのだ！

一郎 ……。

ミドラー 私だって、世界を征服できないことぐらい薄々感づいている……。

両親の無念を晴らすまで、私はお前たちと争い続けるのだ！これは、どちらかの世襲が途絶えるまでの戦いだ！

襖から出てくる千代。

千代 一郎ちゃん、限界よ！ミドラーから離れて！

一郎 しかし……。

正則 ……どちらも続いたらいいじゃないか！

ミドラー なに？

正則 ミドラー。この一週間、大翔といてどうだった？大変だったかもしれないけど楽しくなかったか？大翔の笑顔に、大翔の寝顔に、癒されなかったか？

ミドラー ……。

正則 俺は今、息子と別々に暮らしてる。毎日心配でたまらない。毎日会いたくてしょうがない。世襲を途絶えさせるってことは、愛する子供た

ちの命まで奪うってことなんだぞ！

ミドラー うるさい！黙れ！今すぐにお前たちとは決着を付けてやる！

千代 まずい！ミドラーに火をつけてしまった！

ミドラー 悪に染まった私が情にほだされるわけなからう！今すぐカゾクマン
ロボを発動させる！この家ごと根絶やしにしてくれるわ！

高笑いし、去って行くミドラー。

一郎 ミドラー！

高笑いし戻ってくるミドラー。置き忘れた鞆を手去る。

千代 一郎ちゃん！すぐにカゾクマンロボの発動よ！あたしはミドラーを

追ってくる！

一郎 了解！

一郎は急ぎ足で寝室へ、千代は急ぎ足で玄関へ。

正則がテーブルを片付けようとするとミドラーが忘れて行った
老眼鏡が目に入り……なんとなくかけてみる。

正則 え、ウン！……え？ウンでしょ？……司令かーん！

と、追いかける正則。

照明変化……。

ここはイオンの駐車場となる。

少しして、やってくるイーゲン。

その後ろから男前男と詩織も現れる。

イーゲン 男前よ。ここが、お前たちの死に場所だ。

男前 そう、やすやすとやられるわけにはいかないがな。(と構える)

イーゲン お前が抵抗するなら(大翔を示し)こいつを盾にさせてもらう。

詩織 なんですすって？！

男前 いいのか？大翔くんを傷つければ、ミドラー様にお目玉を食らうのはお前だぞ。

イーゲン お前がやったことにすればいい。どうせお前は死ぬんだからな。

イーゲンが男前男と襲う。序盤は互角。しかしイーゲンが大翔を盾にし、攻撃できなくなると、防戦一方となる男前男。殴る蹴るの暴行を受け続ける。
大翔も泣いていて……。

イーゲン 男前よ。お前が一番見たくない景色を見せてやる。

男前 (瀕死) ……なにをする気だ……？

詩織にゆっくり近づいていくイーゲン。

詩織 ……。

男前 ……イーゲン……やめる……。

イーゲン ……死ね！！

詩織に向かい、手を振り下ろすイーゲン。その瞬間、多津子の声がフラッシュバックする。

多津子 (声) 詩織ちゃん、お茶！

詩織、反射的にお茶を入れる仕草。イーゲンの攻撃を防御する。

男前 詩織さん？！

多津子 (声) 詩織ちゃん、バスタオル！

詩織、反射的にバスタオルを干す仕草。イーゲンを攻撃する。

多津子 (声) すぐにパンパン！

詩織、反射的にパンパンと攻撃する。
一瞬、怯むイーゲン。

イーゲン
クッ！

男前
詩織さん、あなた……。

詩織
わからない、私も、何がなんだか……。

ここへ多津子、大輝、紗江が現れる。

多津子
詩織ちゃん！練習の成果が出たわね！

詩織
お義母さん？！

多津子
さあ！早くこれに着替えて！

紗江
男前、大丈夫？！

男前
紗江さん……。

大輝
イーゲン！もう終わりだ！大人しく大翔をよこせ！

イーゲン
小賢しい……（あたりに）お前ら、かかれ！

幕が降り、ジョッカーたち（映像）が無数に現れる。

大輝
出たな！ジョッカー！ブルーイリ्यूジョン！

ジョッカーたちをなぎ倒す大輝。必殺技を繰り出して、

大輝
イエロー！そっちを頼む！

大輝が幕に消え、紗江が登場する。

紗江
任せといて！どっすんイエロー！

ジョッカーたちをなぎ倒す紗江。必殺技を繰り出すと、そこへ
正則がやってくる。

紗江

あんた！なにそのメガネ？！

正則

ごめん！ただの老眼だった！

紗江

何よそれー？！

紗江、幕に消える。

正則

ふえーるグリーン！

ジョッカーたちをダンスブルになぎ倒す正則。

正則

詩織ちゃん！デビュー戦だ！頑張って！

正則が幕に消え、嫁ピンクのスーツを着た詩織と多津子が登場。

詩織

お義母さん、どうしよう？

多津子

大丈夫！ジョッカーなら詩織ちゃんでも倒せるわよ！

ジョッカーは二人に襲いかかる。

多津子の指示通りに動く、詩織。二人はシンメトリーな攻撃。

多津子

詩織ちゃんお茶！からの雑巾がけ！すぐにパンパン！必殺！ピンク

竜巻バスタオル！

詩織

すごい！竜巻が！

竜巻を作り出す多津子と詩織。

ジョッカーが竜巻に吹き飛ばされていく。

多津子

（ハタキを手に）詩織ちゃん！やるじゃない！

幕が上がる。

大翔の大きな泣き声が聞こえている。

倒れ込んでいる男前男。

男前 ……やりますね、詩織さん。

詩織 待っててね、大翔。今助けてあげるから！

イーゲン 調子に乗るな。さっきのはまぐれだ。

多津子 気をつけて、詩織ちゃん。ジョツカーとは訳が違うから。

イーゲン うるせえ、ガキだ。

イーゲンは抱っこ紐を外しながら、

イーゲン 俺は女子供でも容赦はしない。

詩織 ……。

イーゲン いいだろう。そんなに助けたいなら、このガキを返してやる。

イーゲンは大翔を高々と放る。

それをキャッチしに行く詩織。

その隙に、詩織の目の前に素早く移動するイーゲン。

詩織が大翔をキャッチした途端、

イーゲン 死ね！

詩織にパンチを繰り出すイーゲン。

詩織をかばい、割って入る男前男。イーゲンのパンチを喰らう。

詩織 男前？！

男前 (イーゲんにしがみつき)絶対に、大翔くんを離さないでください！

イーゲン どけ！どくんだ！男前！

男前 さあ！早く逃げるんです！

多津子 詩織ちゃん行くわよ！

詩織 ありがとうね、男前。

男前 詩織さん！今の私は、何点ですか？

詩織 ……90点よ。100点満点は大輝さんだけだから。

男前 残念です……。

多津子 さあ、早く！

多津子は詩織を連れて逃げる。
男前男を振りほどくイーゲン。

男前
あばよ！男前！

最後の一撃を喰らわすイーゲン。
男前男は力尽きる……。

イーゲンは多津子たちを追い、去る。

男前男を残し、幕が降りていく……。

照明変化……。

駐車場近く。

逃げてくる多津子と詩織。反対から大輝、紗江、正則が現れる。

多津子
大輝！大翔を確保したわよ！

大輝
大翔！よかった……。

多津子
でも安心はできない。すぐにイーゲンが追ってくるわ！

大輝
わかった。詩織、絶対に俺から離れるなよ！

あたりに轟音が鳴り響く。

紗江
えっ……なに……？

正則
（指を指し）あそこ……ミドラーが……巨大化していく……！！

多津子
急いでカゾクマンロボを発動させないと！大輝！紗江！急いで家に

戻るわよ！

大輝
悪いが母さん、俺は詩織と大翔を見張ってるからな！

正則
待ってください！詩織ちゃんは僕が見張ります……。

大輝
正則さんが？

お義兄さんは皆さんと一緒にカゾクマンロボを発動させてください。

大輝
しかし……。

正則
カゾクマンロボは、佐久間家の血縁者でなければ発動できない。婿養

子である僕は、カゾクマンロボに乗り込むことは出来ないんです。

大輝
……イーゲンは、かなりの強者ですよ。

正則 お義兄さんには、ずっと申し訳ないと思っていました。記者会見の日、

イーゲンから逃げてしまつて。あの時の借りを返させてください！

大輝 ……くれぐれも、詩織と大翔をよろしくお願いします。

正則 はい！

紗江 あんた！絶対に、生きて帰ってくるのよ！

正則 老眼鏡があれば大丈夫さ！

多津子 さあ！行きましょう！

多津子、大輝、紗江は急いで自宅へと戻る。

正則 詩織ちゃん。僕らはあっちに行こう！

詩織 わかりました！

正則と詩織は反対方向へ歩を進めようとする、怪物の足音が聞こえてくる。

詩織 ……この、威厳……。

正則 ……やつは、近くにいます！

幕が上がる。

そこにはイーゲンの姿……。

イーゲン よりにもよって、クソ弱いデブが見張りとはな。

正則 出たな！イーゲン！

イーゲン どうせ俺には叶わない。大人しく大翔をよこせ。

正則 あの時の僕とは訳が違うぞ！

イーゲン だったら死んでもらうまでだ。お前も、詩織もな！

正則 VS イーゲンの戦い。

二人の立ち回り、互いに互角。

イーゲン なかなかやるな。確かにあの時とは別人のようだ。

正則

(息切れしつつ) ……だから……言っただろう……。

イーゲン

だが、その程度のスタミナで俺に歯向かうのは100年早いわ!

スタミナ切れ、次第に劣勢になる正則。

そこへ、とどめを刺しに行くイーゲン。

大翔が愚図りだす。

イーゲン

とどめだ! デブグリーン!

詩織の歌う子守唄が耳に入るイーゲンが眠気眼に。

イーゲン

……やめろ、その子守唄を……やめてくれ……。

イーゲンがウトウトし始める。

正則

眠そうだ……詩織ちゃん、続けて!

詩織

(歌って)

イーゲン

(いびきをかく)

正則

今だ! ミュージックスタート!

息を吹き返した正則の必殺技が炸裂する!

正則

……借りは、返したでがす。

幕が降りると、町並みの風景。

巨大化したミドラーが現れる。

ミドラー

おのれ婿グリーン……こうなったら町中を火の海にしてくれるわ!

炎を吐くミドラー。町並みが火の海と化す。

そこへ自衛隊のヘリや戦闘機がミドラーに襲いかかる。

ミドラー 目障りだ！自衛隊ども！

怒りに満ちたミドラーは自衛隊をばったばったとなぎ倒す。
自衛隊はまるで歯が立たない様子。

ミドラー さあ！さっさとカゾクマンロボを発動させろ！

次に現れた戦闘機を追い、去って行くミドラー。
幕が上がると、ミドラーの戦いを見ていた様子的一郎と千代。
一郎はすでにレッドのスーツを着ている。

千代 つ、強い！

一郎 まるで全盛期のミドラーをみているようだ。

そこへ帰ってくる多津子、大輝、紗江。

千代 さあみんな！カゾクマンロボの発動よ！

一郎 お千代さんも乗ってくれるよな？

千代 ロボに乗るなんて40年ぶりよ。みんなの足手まといになるわ。
なに言ってる。お千代さんなら大丈夫だ。

多津子 そうよ！それにお千代さんしか出せない技があるじゃない！

千代 わかった。やるだけやってみる。

一郎 よし、みんな！配置につけ！

皆 おう！

5人は座卓を手にするると、

一郎 テーブル、トルネードアタック！

皆 アタック！（座卓を回し、奥の廊下へ）

一郎 ダイニングテーブル、シャイニング！

皆 シャイニング！（テーブルを回し、奥の廊下へ）

一郎 （トイレからスッポンを取り出し）スッポン、シエアリング！

多津子 (受け取って) スッポン!

千代 (同じく) スッポン!

大輝 (同じく) スッポン!

紗江 (同じく) スッポン!

一郎 (最後のスッポンを掲げ) スッポン!

カゾクマンロボが発動する映像。

そして町並みの風景に巨大化したミドラーの姿。

ミドラー カゾクマン! この長きに渡る戦いに終りを告げる時が来た! どちら

の一族が生き残るのか、勝負しようではないか!

幕が少し開くと、操縦席の5人が見えてくる(スッポンで操縦)。

多津子 望むところよ!

一郎 大輝! 紗江! 急げ!

大輝 紗江! 呼吸を合わせるんだ!

紗江 OK! 行くわよ! せーの!

大輝/紗江 イチニ、イチニ、イチニ、イチニ……。

大輝と紗江はスッポンを前後に動かす。

下手の幕が上がると、「イチニ」「イチニ」の呼吸に合わせて、

カゾクマンロボが登場する。

ミドラー 出たな! カゾクマンロボ!

多津子 まずはこれでも喰らいなさい! アンビリールバブルロケット!

数十発のロケットが発射される。

ことごとくはじき返すミドラー。

ミドラー ちょこざいな。こんなもの屁でもないわ!

多津子 今日のミドラーは間違いなく強い……。

ミドラー これでも食らえ！

ミドラーの手から稲妻が放たれる。
ダメージを受けるカゾクマンロボ。

皆 うわああ！

一郎 こうなったらお千代さん！頼む！

千代 ミドラー！父親を苦しめた必殺技であなたも仕留めてあげる！行くわよ！アンビリーバブルパンチ！

カゾクマンロボの腕が伸び、数回のパンチを繰り返す。
しかし、全てのパンチがミドラーには届かず……。

一郎 どうした？！お千代さん？！

千代 40年ぶりで、完全に目測を誤ってる！ごめん！

一郎 こうなったら母さん！必殺、満月切りだ！

多津子 了解！行くわよ！お父さん！

一郎 せーの！

一郎と多津子はストップンをグラインドさせる。

と、一郎の動きが止まって、

大輝 なにしてんだ？！親父！

一郎 ロボが錆びている……クレ556を付け忘れた！

紗江 なんですって？！

ミドラー フッフッフツ……どうやらカゾクマンの終焉が来たようね。

一郎 くっそー……。

ミドラー さらにだ！カゾクマン！

また稲妻を放とうとするミドラー。

その瞬間、センターの幕があく。そこには大翔を抱えた詩織。

詩織 (見上げて) ミドラーやめて!あなたは 大翔も殺すっていうの?!

ミドラー (ふと止まり) ヒロちゃん……。

詩織 ほら。大翔。見てごらん。ミドラーおばちゃんだよ。おつきいねえ。ものすごい大きくなってるね、ミドラーおばちゃん。

大翔の笑い声がしてくる。

詩織 笑ってるの。面白いよねえ、大きいミドラーおばちゃん。

ミドラー (払拭しようとして) さらにだ!カゾクマン!

今一度稲妻を放とうとするミドラー。

ふと、その手が止まり、

正則 (声)世襲を途絶えさせるってことは、愛する子供たちの命まで奪うってことなんだぞ!

幕にミドラーのアップ。その目からは大粒の涙がこぼれ落ちる。

多津子 ……ミドラーが……泣いてる……。

紗江 一体、どうなってんの……。

ミドラー (悲しげに手を振り) バイバイ……ヒロちゃん。

ミドラーが、その場を立ち去っていく。

そこへ遠くから数台のヘリコプターの音。

一郎 あっ、自衛隊が逃げていく……。

ヘリの音がどんどん大きくなっていく。

容暗……。

その日の夕方……。
居間にいるカゾクマンたち。
皆どことなく疲れている。
そこへ廊下から詩織がやってくる。

一郎 眠ったかい？大翔。

詩織 ええ、もうぐっすり。

一郎 なんだかんだ、大翔が一番疲れてるのかもしれないな。

多津子 安心してるのよ。やっとママの元へ帰ってこれたんだから。

正則 あの、お義父さん。

一郎 ん？

正則 そろそろ、呼び戻してもいいですか？倫太郎。

一郎 また卵が投げ込まれるかもしれないぞ。

正則 その時は僕が守ります。倫太郎もママの元にいさせてやりたいんです。

紗江 あんた……。

一郎 俺は全然構わないよ。正則くんがそう言うなら。

正則 ありがとうございます。

多津子 大輝、もうヤフーニュースに載ってる？

大輝 (携帯を見て) ああ。

多津子 なんて？

大輝 「自衛隊でもミドラーに敵わず」

多津子 今日のミドラーは、本当に強かったもんね……。

紗江 ウチらのニュースはこの人だってイーゲン倒したじゃない？

大輝 (確認し) ……載ってない。

紗江 ほんと勝手よね。活躍した方のニュースは載せないなんて。

大輝 マスコミなんて、そんなもん……えっ……。

紗江 なに？どうしたの？

大輝 「総理明言。ミドラー対策には地球防衛軍との連携が必要」だって。ってことは、カゾクマンをやめずに済むってこと？

紗江 そういうことだ。

大輝

皆、安心の表情を浮かべ……。

紗江

よかったわね。あたしたち、無職にならなくて。

一郎はレッドのヘルメットを大輝へ。

一郎

大輝。あとはよろしくな。

大輝

(受け取って) ああ。任せておけ。

多津子

詩織ちゃんも。あとは頼んだわよ。

詩織

はい。力不足だとは思いますが、頑張ります。

正則

でもどうするんですか？あと、一人は……。

多津子

大丈夫よ。あたしが再デビューするから。

紗江

シヨッキングピンク？

多津子

ううん。ローズピンク。

紗江

ああ、いいんじゃない。そっちの方が年相応で。

エンディングテーマが流れる。

上手の幕が下がり、歌詞が映し出される。

歌

家族には 言えない 悩みがある

家族には 言えない 隠し事がある

父レッドの 持っている株券が 安値を更新していること

母ピンクは 必ず行くつもり ××のダイナーショーへと

嫁ピンクは 大翔が生まれて セックスレスに悩んでいる

兄ブルーは エゴサーチで見つけた 女性ファンにDM送った

婿グリーンは ずっと疑っている 元彼と紗江の不倫を

妹イエローの 息子倫太郎は 正則の子供じゃないかな

ああ バレてしまうのが恐ろしい

ああ 怖くて今夜も眠れない

ああ 世襲戦隊カゾクマン

ああ 世襲戦隊カゾクマン

それぞれが着替えへと去る。
残されたヘルメットが夕日に染まっていく。
容暗……。

N 次回の世襲戦隊カゾクマンは？！

明転すると手術台に横になっている一郎。
白衣を着たミドラーが手術を施す。

N 腰痛の手術に踏み切った一郎。その最中にミドラーが現れるとそのまま改造人間にされてしまう。

悪い表情を浮かべる一郎。そのまま廊下へと去る。
ミドラーはアジト（庭）で待つイーゲンの方へ。

N 一方では、ミドラーの手により復活したイーゲン。ミドラーはイーゲンと情性で結婚し、イーゲンのDVに悩まされていた。

イーゲンはミドラーに往復ビンタを食らわし、去る。
ミドラーはさすがのようにイーゲンを追う。
居間では千代と談笑するカゾクマンの姿。

N 平穏に暮らしていたはずのカゾクマン。しかし、ミドラーの配下となった一郎が突如、カゾクマンを襲う！

豹変する一郎に驚くカゾクマン。

N そこへやってきたのは、最新技術によりAIを搭載された、怪人、男前男だった！

男前男がカゾクマンの窮地を救う。
幕にタイトル。

N

次回、世襲全体カゾクマン！「さようなら一郎！さようならカゾクマン！喪服の黒は俺たちには似合わない！」乞うご期待！

テーマソングがかかる。

幕が上がり、カゾクマンの登場。

レッド 父レッド！

ピンク 母ピンク！

ブルー 兄ブルー！

イエロー 妹イエロー！

グリーン 婿グリーン！

レッド 五人揃って！せーの！

皆 カゾクマン！

決めポーズをし、終幕。

おしまい